

2025 年度共通教育科目 FD 活動報告

共通教育委員会委員長

南川 和充

■ 宗教科目 (宗教教育委員会)

▶ 宗教科目担当者 FD 懇談会の実施

2025 年度宗教科目 FD 活動方針・活動計画に基づいて、科目担当者懇談会を 2026 年 3 月 6 日に Zoom にて実施した。事前に教材・資料の提出を依頼して配付、もしくは当日資料を画面共有していただいた。まず一人ずつ自身の①授業運営について②現状・今後の課題について発表していただき、意見交換を行った。(参加者 5 名)

授業運営については、各教員とも様々な工夫をしていることが紹介された。また今回は出欠の取り方、授業内容についての話題が中心となり、意見交換が行われた。現状の方法および問題点や課題点を共有し、より良い方法を採用するための意見交換が行われ、授業運営の発展につながるものであった。試験方法やレポートの出し方・内容、授業内で取り扱っている図書などの共有もあり参考になる意見も多かった。今後も各担当者間の連携を深め、問題解決およびより良い授業運営に向けた取り組みとなるよう引き続き実施していきたい。

▶ 宗教論受講生対象講演会におけるアンケートの実施

この講演会はキサラ学長による学長講演会であり、1 年生の必修科目である「宗教論」受講生全員を対象とした講演会である。今年度は「カトリック大学で学ぶ意味を考える」という演題で、各クォーターに 1 回ずつ、計 4 回の講演会を開催した。その際、アンケートを PORTA アンケート機能にて実施しており、出席者全員から回収している。アンケート内容は、講演内容に対する評価、南山大学で学ぶ意味について、宗教に関する疑問・意見など自由記述できる設問を設け、回答内容を集約したものを科目担当者や学長の間で共有を行った。入学したばかりの 1 年生に意識づけができ、また、全履修者の内 7~8 割ほどの回答を得られ、宗教科目授業運営の発展のための資料とすることができた。

講演会日時:

【Q1】 2025 年 5 月 14 日 (水) 13:35~15:15

【Q2】 2025 年 7 月 23 日 (水) 13:35~15:15

【Q3】 2025 年 10 月 1 日 (水) 13:35~15:15

【Q4】 2025 年 11 月 26 日 (水) 13:35~15:15

■ 体育科目・スポーツ科目 (体育教育センター)

今年度は、授業運営の安全性と効率性を向上させるため、地下 2 階剣道場倉庫の環境整備を実施した。まず、用具の選別 (低頻度・老朽化) によるスペース確保を行い、安全な動線の確立と準備時間の短縮を図った。整理後は、ニュースポーツ 4 種目の研修会を開催。現場で応用可能な運営ノウハウや簡易ゲームの進行法を共有したほか、学習課題

に対する評価項目・基準について具体的な意見交換を行い、指導体制の充実を図った。

■情報倫理・情報科目（情報センター）

以下のとおり FD 研究会を実施した。

- ・ 2026 年 3 月 25 日（水）11:00-12:00（オンライン）
- ・ 2026 年度「情報倫理」科目担当者 10 名
- ・ 内容：2026 年度に向けての確認事項

2026 年度の「情報倫理」も e-learning と対面授業を組み合わせた従来通りの方式で実施することを確認した。授業内容に関して、一部のテーマを入れ替えることになったため、変更内容と意図を共有した。グループディスカッションと発表を中心とするアクティブラーニング形式の授業の効果的な実施に向けて、グループワークへの取り組み方や積極的ではない学生への対応について意見交換を行った。

■「人間の尊厳」科目（人間の尊厳科目委員会）

「人間の尊厳」科目は 1996 年度に開講され、2025 年度で開講 30 年を迎えることから、FD 委員会主催（SD 委員会共催）のもと全学レベルでの FD を企画、2026 年 3 月 11 日 15:00-16:20 に実施した。

本企画のタイトルを『南山大学で育む「人間の尊厳」』とし、「人間の尊厳」科目開講の理念を改めて確認するとともに、同科目担当教員 2 名による授業実践の講演を行った。参加者は対面 38 名、オンライン 41 名であり、参加者との間で活発な質疑応答が行われた。これらを通じて、南山大学の教育モットーである「人間の尊厳のために（*Hominis Dignitati*）」を授業の中でどのように学生と共に考えていくかについて、教員間の理解を深めるとともに、今後の授業実践に向けた有益な示唆を得る機会となった。

■基盤・学際科目（基盤・学際科目委員会）

基盤・学際科目の特徴や各科目間の関係についてまとめた『2025 年度基盤・学際科目案内』を作成し、大学ウェブサイトの教務案内ページに掲載した。この科目案内の作成をとおして、各コーディネーターは基盤・学際科目についての理解を深めることにつながるとともに、コーディネーターと授業担当教員、コーディネーター同士の連携が促進された。

また、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に係る自己点検・評価の一環として、2024 年度に開講した学際科目「データサイエンス入門」の授業担当者による FD 研修会を実施した。開講 2 年目における各クラスでの授業実施状況や教材等の共有、次年度に向けての授業方法の検討や改善点等の意見交換が行われ、当該科目の改善・進化に向けた検討を行う有意義な機会となった。

■キャリア教育科目（キャリア支援委員会）

1. 1-1. 「就業実践研修Ⅱ」報告会

キャリア科目「就業実践研修Ⅱ」報告会を2回実施した。就業実践研修実習に参加した学生が各教室に分かれて成果を報告した（一人あたり発表10分、質疑応答5分の計15分）。キャリア支援委員は各教室にて司会進行を務め、学生に対するフィードバックを行った。また、受入企業・機関の参加もあり、実習および発表に関する学生への感想や助言をいただく機会ともなった。詳細は、以下のとおりである。

① 2025年4月23日（水）15：45～17：05、学生（発表者）：15名（3教室）

② 2025年10月1日（水）13：50～15：30、学生（発表者）：33名（6教室）

1-2. 「就業実践研修」意見交換会

上記報告会后に、実習受入企業・機関（15企業・機関、23名）およびキャリア支援委員、キャリア支援課スタッフ、科目担当講師（「就業実践研修Ⅰ・Ⅱ」担当）との意見交換会を実施した。内容としては、大学から受入参加企業・機関への学生受入れに対するお礼、参加企業・機関からは実習の実施状況や改善点について意見、要望等を伺い、双方意見交換する場となった。

2. 2026年1月22日（木）3限に、2025年度FD・SD研修会「社会とつながる学びの作り方ー実践型PBLを“現実に落とし込む”デザインと仕組みー」を対面とオンラインのハイブリッド形式で実施した。キャリアを考える上で、社会とのつながりの中での学びが注目されている。実践型の多用な学びが実践されている現在、様々な大学でのプロジェクトベースの教育手法についての概論と最前線を知ることがこの研修の目的とした。研修内容として、2026年度より新規キャリア科目『社会から学ぶ実践研修』でご協力いただく特定非営利活動法人G-net代表理事の南田氏および元名古屋経済大学副学長の中村氏よりそれぞれ講演していただいた後、副学長（学務担当）およびキャリア支援委員会委員長との4名でパネルディスカッションを行った。当日の参加者数は35名（教員16名、職員19名）だった。

■海外研修科目（国際センター）

2025年5月9日（金）に開催されたグローバル戦略センター主催FD:NU Global Faculty Learning Community (GFLC) 2025に、科目担当者が参加し、国際共修についての意見交換を行った。

■外国語科目（外国語教育センター）

外国語教育センターでは2025年度にFD研修会を英語教育部門で2回、初習外国語教育部門で1回行った。

英語教育部門では、上級語学講師（S.L.I.）が中心に、春学期に実施してきた授業運営方法について、成功・失敗例を共有し、秋学期の授業運営に役立てる企画（2025年9月）と、秋学期の授業運営についても2026年に活用するための企画（2026年2月）を実施し、専任教育職員に加え非常勤講師も参加した。

初習外国語教育部門では、円滑な授業運営のための情報共有を目的として、副センター長および各言語を担当する語学講師（L.I.）がそれぞれの授業運営上の工夫や問題点

について報告して情報を共有したほか、指定教科書を使っていかに学生に対して効果的な授業を展開するかについて議論した（2025年7月）。

以 上